

SDGsへの理解を深める公開講座を毎年開催

大阪成蹊大学は、「未来展望セミナー」と銘打ち、2020年度より公開講座を毎年開催している。同大学教員や各分野の専門家が登壇。セミナーでは、食糧の安定的供給の確保と食糧自給・飢餓・貧困問題、地球の未来を鳥瞰した環境配慮経営の在り方、国際エネルギー情勢と日本のエネルギー政策等について、SDGsの目標やターゲットを踏まえたテーマで意見が交わされた。



大阪成蹊大学

キャンパス万華鏡

大学×SDGs (Sustainable Development Goals)

写真が語る大学の横顔

2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs(Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標))は、17の目標と169のターゲットで構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。達成の期限は、2030年。政府、企業、市民社会、そして国連システムが一体となり達成を目指す。SDGsを達成するうえで、大学のもつ特徴的かつ極めて重要な社会的役割に対する期待が高まっている。そこで、日本私立大学協会加盟大学に呼びかけて寄せられた大学のSDGsの取り組みをここに紹介する。

重度の障害があっても
姫路城へ

関西福祉大学



関西福祉大学の社会福祉学部では、「ドーナツ社会におけるSDGs～誰も置き去りにしない社会を実現するために私たちができること～」をテーマに、社会福祉学部の各ゼミが自分たちができることを探し、地域に学び、地域に還元する活動を展開している。『「最重度の障害があっても姫路城天守閣に登ろう」Project～「あきらめる」「仕方ない」は私たちが使うべき言葉ではない～』では、最重度の身体障害(肢体不自由)がある方の希望に寄り添い、姫路城の天守閣の登城を支援し、最上階からの景色を楽しんでいただくプロジェクトを継続して実施している。

寄付金を募り、海外での教育活動を支援



エリザベト音楽大学

エリザベト音楽大学では、大学祭や演奏会における利益の一部と募金活動で集まった寄付金を被災地や福祉関係などに送る取り組みを創立以来続けている。近年は、東ティモールやタイ北部のイエズス会学校を中心に寄付をしている。現地では、コロナ禍で経済的な見通しが立たない中、質の高い教育を提供するための努力が続いている。本学の「他者のために生きる人材の養成」という教育理念に基づいて、これからも支援を続けていく。

団地の活性化と住民交流



神奈川大学

神奈川大学は、草創期から地方入学試験や給費生制度を導入し、市民対象の公開講座も実施するなど、広く学びの機会を提供してきた。SDGsが目指す持続可能な社会の実現は、建学の精神や同大学の使命に合うものであり、2018年9月に「神奈川大学ダイバーシティ宣言」を公表、また2019年4月に「SDGsへの神奈川大学のコミットメント」を発表するなど、姿勢を表明している。現在、高齢化の進んだ大規模団地を男子サッカー部の寮として活用、地域の活性化や住民との交流を図るなどしている。

ミクロネシアで
環境教育活動

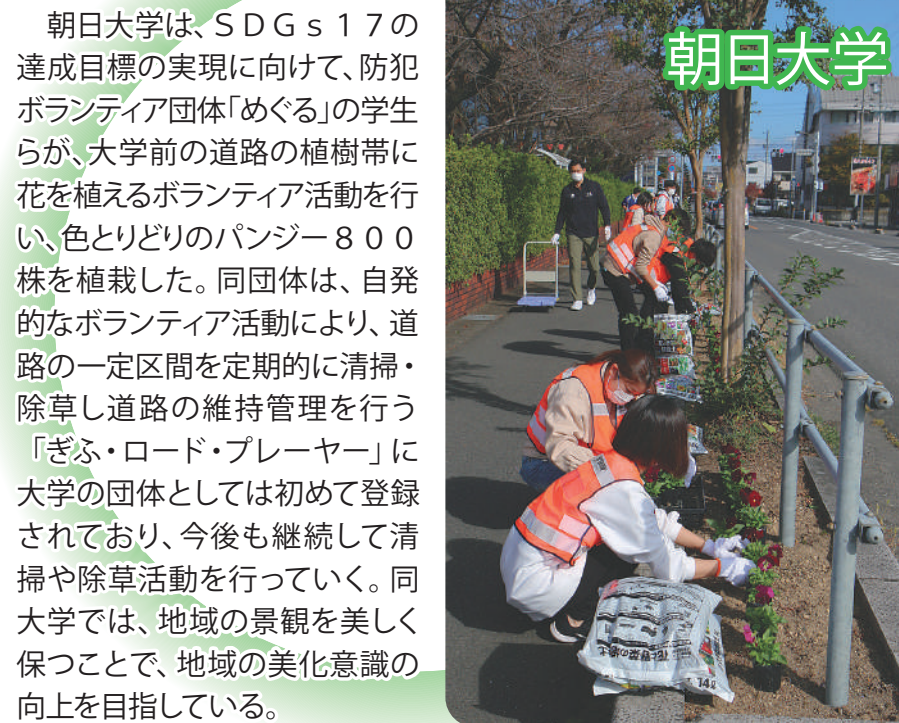
麗澤大学



麗澤大学の学生団体「Japanesia」は、国際協力を実践的に学びたい学生が集まってできた団体のひとつで、学生は「太平洋の島国であるミクロネシア連邦における子供たちに対する環境教育プロジェクト」をカレッジ・オブ・ミクロネシアの学生と協力して実施している。また、現地の小学校での啓発活動や新たな雇用創出のためのタイヤサンダル・プロジェクトなどを実施するなど、活動の幅を広げている。

「ぎふ・ロード・プレイヤー」を担う

朝日大学



朝日大学は、SDGs17の達成目標の実現に向けて、防犯ボランティア団体「めぐる」の学生らが、大学前の道路の植樹帯に花を植えるボランティア活動を行い、色とりどりのパンジー800株を植栽した。同団体は、自発的なボランティア活動により、道路の一定区間を定期的に清掃・除草し道路の維持管理を行う「ぎふ・ロード・プレイヤー」に大学の団体としては初めて登録されており、今後も継続して清掃や除草活動を行っていく。同大学では、地域の景観を美しく保つことで、地域の美化意識の向上を目指している。

学生・大学の両側から
SDGsに取り組む
「アイコン・プロジェクト」

敬愛大学



大学の基本方針としてSDGsへの取り組みを掲げる敬愛大学では、学生が普段からSDGsを意識して行動できるように大きな目標を学生自身の小さな目標に落とし込む「アイコン・プロジェクト」が始動した。学生の目標が社会に広く貢献できるように、SDGsと自分の目標とをつなぎ合わせ、アイコン化する。国際学部の学生は、「世界平和」の実現のために、まずは留学生へ積極的に話しかけることを自らの目標に掲げた。今後、作成したアイコンをもとに学内の啓発活動への活用や学生自身の調査・研究の視座としていく見通し。

SDGsをテーマにプレゼン



高岡法科大学

高岡法科大学の基礎演習Ⅰ(1年生対象の必修科目)において、SDGs(持続可能な開発目標)についてのプレゼン大会が3週連続で行われた。学生はゼミ単位でSDGsの17のゴールから1つを選択して発表し、SDGsへの理解を深めた。ゴール達成のために自分たちが何を実践できるか、身近な例からグローバルな活動まで、様々な視点から活発な意見交換が行われた。

難民障害者の社会参加促進

大阪保健医療大学

大阪保健医療大学では、リハビリテーション専門職として様々な生活や価値観に触れ、国際的な活動にも取り組んでいる。中東シリアでは2011年から紛争が継続し、500万人をこえる難民が近隣国に避難しているがヘルスケアにアクセスすることが困難な状況である。山本清治同大学准教授の活動は、紛争で身体障害を有する難民に対してリハビリを提供する現地医療従事者の育成を担う。国際協力によりシリア隣国のヨルダンで研修会を通して活動し、難民障害者の社会参加促進を支援している。



商店街活性化を
美作大学



美作大学では、この度、津山市商店街からの要請もあり、空き店舗を改修し美作学園として「みまっばらざ」を出店することになった。地方創生・若者定住の促進、学生の実学を学ぶ場の創出、地域交流等を目的に店舗を運営していく。2021年度7月頃から学生有志10人程が市の補助金などを活用して準備を進め、12月18日(土)にオープンした。現在は約50人の学生が運営スタッフとして在籍している。住民参加型の講座等で大学の知的財産の提供、中国四国地方、沖縄県等学生出身地の特産品の販売、学生団体によるパフォーマンス、カフェ等様々な活動を行う予定。

ジェンダー平等展を開催



大阪成蹊大学

大阪成蹊大学のS.A.(Student Assistant)の学生の有志が、学内で「ジェンダー平等展」を開催した。性の不平等を題材にとった世界各地のポスターを所有する「女性会議」の三井マリコさんより、学生自身が興味を持った15点を借り入れて展示。個々の作品に対する学生の視点も織り交ぜた解説文を書き、訪れた一人ひとりに当事者意識を持って接してほしいというメッセージを発信した。参加者からは「問題を再認識できた」「男女の二項だけではない多様な性の問題にも目を向けたい」など多くの声が寄せられた。

インクルーシブスポーツキャラバン

尚絅学院大学

尚絅学院大学では、児童生徒が障がいのあるなしにかかわらず、同じフィールドに立ってともにスポーツを楽しむ企画「インクルーシブスポーツキャラバン」がスタートした。SDGsの理念のもと、同大学学校教育学類の学生、ベガルタ仙台、障がい者サポーターズGolazo!、知的障がい者サッカーチームSenda i Forza、各自治体が協力連携して行われている。2021年は宮城県内9会場で実施し、延べ約270組の人たちが参加。「誰一人取り残さない」世界への第一歩を、着実に踏み出している。

